

♪ 2023年度 *poco a poco* ♪

Nr. 5 2023年5月22日(月)

文責:プファイル・辰巳

さわやかな風の中で

戸外で過ごすのが楽しい季節になりました。公園で遊んだり、テラスカフェに座ったり。夏至までは、まだ日も長くなるわけですが、考えてみるとあと約一か月。するとまた日が短くなっていくのか・・・なんて悲観的なことはちょっと考えないことにして、この季節を楽しみましょう。

そろそろいちご摘みができるでしょうか。それからサクランボの旬がやってきて、大きな楕円形のスイカも店先に並びますね。新鮮な夏野菜や果物をしっかり食べて、お日様の光もたくさん浴びて、元気な身体を作りましょう!

運動会や水泳教室も楽しみですね。みなさんの笑顔がはじける毎日でありますように。そして、音楽室でも明るい歌声が響きわたりますようにと願っています。

<音楽こぼれ話 音楽の中で活躍する動物たち ③ ねこ >

「迷子の 迷子の子ねこちゃん あなたのおうちはどこですか〜♪」で始まる曲の題名は何でしょう?・・・答えは「犬のおまわりさん」です。1年生の子どもたちも大好きなこの曲は、子ねこちゃんが主人公かと思いきや、困っている犬のおまわりさんが題名になっています。曲名当てクイズでよくひっかかる問題です。「十二支」の中には入れてもらえなかった「ねこ」ですが、「ねこ」が活躍するクラシック音楽ってあるのでしょうか。

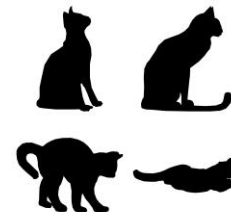
小学校の教科書に登場するのは、アンダソンという作曲家の「子ねこのワルツ」です。ヴァイオリンのポルタメント奏法(指を弦の上で滑らせて二つの音をつなげる方法)を使って「ニャーオ」というねこの鳴き声を表現しながら、しなやかに踊るねこの様子をワルツに仕上げた曲です。



そのねこの鳴き声ですが、日本語では「ニャーオ」、英語やドイツ語では「ミャウミャウ」となります。この「ミャウミャウ」だけで歌い上げる「ねこの二重唱」を作曲したのはイタリアの作曲家ロッシーニです。ソプラノとアルトの女性二重唱で演奏される場合が多いようですが、男女の二重唱で、オスねことメスねこのやり取りのように演奏される場合もあり、それぞれの表現力で全く異なる雰囲気

に仕上がるのが楽しい曲です。その他にはフランス人作曲家フォーレがピアノ連弾のために作曲した「キティのワルツ(Op.56)」や同じくフランス人のサティが作曲した歌曲「ねこのシャンソン」などもあります。

20世紀のアメリカ人作曲家コープランドの「ねことねずみ」という曲はピアノ独奏曲で、現代曲特有の演奏テクニックが必要な曲です。トムとジェリーが追っかけっこしているような様子が思い浮かんだりします。そういう楽しい曲でありながら高度な演奏技術も問われるということで、少年少女たちのピアノコンクールの課題曲になったりします。検索すると動画もたくさん出てくるので、聴いてみてください。



ちょっとだけ 演奏会情報

夏のフェスティバル紹介 ①

~ Weilburger Schlosskonzerte ~

フランクフルトから北へ約50km。ラーン川沿いの丘の上に立派なお城があるヴァイルブルクという町で、毎夏お城のコンサートが開催されます。お城の中庭で野外コンサートだったり、城教会内でヴォーカルアンサンブルだったり・・・と、コンサートホールとは違った雰囲気でクラシック音楽を楽しむことができます。

金・土・日曜日にプログラムが予定されていることが多いです。子ども向けのコンサートやジャズ、アイルランド民謡などのコンサートもあります。詳しいプログラムやチケットの予約は以下のサイトから。

www.weilburger-schlosskonzerte.de